明慈戦の後日、あかねの自宅。
あかねは、**愛犬マロン（大型犬）をバーベルがわりに肩にかついで、ヒンズースクワット**に励んでいた。200 対 0 という屈辱的なスコアを思い出し、雪辱を誓うあかね。その一方で、元のあかねと、朝倉との因縁がどうしても気になるようだ。
あかね「しかし、あの可憐なあかねちゃんが、本当に朝倉なんかとつきあっていのか？そして彼女の無垢な肉体が奴の毒牙に･･･。という事は、この体は･･･もう処女ではない･･･！？ああ～･･･なんだこの脱力感は･･･そしてこの切ない気持ちは･･･？」
案の定、ここで爺さん登場。
爺さん「それは『恋』じゃよ。お前は、あかねという女に恋心を抱き始めたのじゃ。そして、あかねの昔の男に嫉妬を感じておるのじゃ」
鋭い指摘だったが、複雑な魂と肉体の関係にある今のあかねには、どうすることもできなかった。

その頃、弁天堂大学では、大きな地殻変動がおきていた。明慈戦の大敗を受け、ラグビーをやっていく自信をなくした、近藤主将を含むラグビー部レギュラー8 名が、監督に退部を申し出たのだ。
しかし、監督は「これからが、新生弁天堂ラグビー部の始まりだぎゃ！！」と、むしろ高揚していた。思った以上の脱落者数だったようだが、それを見越しての明慈戦だったようだ。
あかねがグラウンドに到着し、練習に参加しようとすると、明らかに人数が少ない。近藤も含む大勢が辞めてしまったことを知らされ、あかねは監督に詰め寄った。
監督は、「獅子は我が子を千尋の谷に突き落とす」という故事を引用し、弁天堂の可愛い部員達を明慈戦という深い谷底に落としたのだと力説した。
あかね「この時代錯誤のスポ根オヤジがーっ！！残された 8 人でどーやって試合すんだーっ！！」と、監督をぶっ飛ばしたあかねであった。**もう立場逆転してますね。**
だが、監督は秘策を用意していた。あるリストをあかねに渡す。そこには、各種運動部に所属するエースメンバー達が記されていた。
監督「これから新生ラグビー部を作るために、引き抜くメンバーのリストだぎゃ」
おいおい、**彼らが入ってくれる根拠がない**だろ･･･。あかねが呆れてしまうのも無理はなかった。
部員の問題はさておき、その日も夕方遅くまで練習に励むあかね。一人でダミーに対してタックルの練習を繰り返している。たまたま、退部したばかりの近藤が近くを通りかかった。たった一人でひたむきに練習に励むあかねの横顔に、近藤は旧友であり親友であった勇二の姿を見出したのであった。
練習を終え、疲労困憊で倒れこむあかねだったが、誰かにタオルをかけられた。それは近藤だった。

近藤「そんな所で寝てるとカゼひくぞ」
あかね「お前、退部したんじゃ･･･」
近藤「退部届は取り消してもらったよ。･･･お前が一人で練習している姿と、前に主将をやっていた勇二って奴がだぶって見えたんだ･･･」
近藤は、高校時代からの悪友であった勇二と、一年生のときに弁天堂ラグビー部悲願の初勝利を達成すると互いに誓い合ったエピソードを話す。
近藤「その約束を果たせないまま奴は死んじまった。今俺が退部したら、奴を裏切るような気がしてな･･･」
あかね「近藤･･･お前ってなんていい奴なんだ！！」
思わず近藤に抱きついてしまうあかね（勇二）であった。

あかねがちょうど近藤に抱きついている瞬間に、**タイミング悪く朝倉が現れた**。朝倉は、どうしてもあの試合以来、あかねの豹変振りが気になっており、その真相を改めてあかねに直接確かめるために弁天堂大を訪れてきたのだ。
朝倉「あ･･･あかね君、キミは･･･神聖なグラウンドで男女が抱きあうなんて･･･」
この男、無駄にストイックである。
朝倉は、あかねがそんなに低俗な人だったとは思わなかったと言い捨てて、きびすを返そうとした。
朝倉「こんな所へ来るんじゃなかった。君のそんな醜態を見るとは･･･！！」
経緯も知らずに一方的にまくし立てる朝倉に、さすがにあかねはカチンと来た。
あかね「てやんでぃ！勝手にのこのことやって来て、好き勝手言うないっ！！**このゴーカン野郎が！！**」
今度は、朝倉が取り乱した。
朝倉「な･･･なんの事だ！？」
あかね「しらばっくれるな。無理矢理この体を犯したあげく、ポイッと捨てたんだろーが！！」
両者、全くもって思い込みが激しい。それを聞いた近藤も、朝倉に掴みかかろうとする。しかし、ここで朝倉は、自分とあかねは文通による清いプラトニックラブであったのだと弁明する。
朝倉「学生たる者の男女交際というものは、文通を経て交換日記などをして、初めてデートをするものじゃないか。少なくともボクはそう確信している！最近の女の子ときたら簡単にマタを広げてのセックスの大安売りだ！！実に嘆かわしいっ！！」

朝倉のこれは、**その表情とあわせ、この漫画随一の名セリフ**であろう。
続けて朝倉は、あかね（元のあかね）と別れたいきさつを話し始めた･･･。

ある日のデートの帰り道、朝倉とあかねは楽しそうに歓談していた。しかし、あかねは、ある男性の後姿をみた瞬間、大きく反応して「あ･･･あの、私を覚えていませんか！？」と声をかけにいった。結果的にこれは人違いであったのだが、一連のあかねの行動をみていた朝倉は、あかねに別の意中の男性がいるのではないかと疑った。朝倉は迷ったあげく、それを確かめるためにカマをかけてみることにした。
朝倉は、やや強引にあかねを木に押し付け、あかねにキスを迫ろうとした。ここであかねが朝倉の求めに応じれば、先の疑いは思い過ごしで済むのだが･･･。
あかねは、途中まで朝倉を受け入れるそぶりであったが、刹那、ある男性の幻影をみた！

そして、最終的に朝倉を拒絶してしまったのである。
あかね自身もその男性の顔をよく覚えていないのだが、それは何年か前に自分を助けてくれた人であり、彼もラグビーのジャージを着ていたということだけは覚えているのだ。なお、**この男性が誰であるかは、後々わりと重要になってくる**ので、ここに注意しておこう。

あかねに他の意中の男性がいることを確信し、
朝倉「ボクはラグビーでも恋愛でも、常にパーフェクトを目指している。ボク以外の男がキミの心の中にいるのなら、ボクはもうキミとはつきあえない」
･･･こうして、朝倉とあかねの関係は終わりを告げたのだった。
朝倉「･･･という訳で、ボクがあかね君をゴーカンしただなんて、勘違いもはなはだしい！」
朝倉との間に肉体関係がなかったことにあかね（勇二）は安堵した。
朝倉にお礼を言い、近藤と場を立ち去るあかね。朝倉は不可解なあかねの言動に、呆気にとられるばかりであった。

その後、あかねは、近藤に監督の策略によって、部員が皆やめてしまったことを明かす。そして、他の運動部のエース級を集めて新生ラグビー部をつくろうとしていることも。
近藤「くっそ～っ。まんまと俺達は監督の策略にはまったって訳か！！よしっ、あかね。監督を問いつめに行こうぜ！」
再び教員室を訪れた、近藤とあかねだったが、もう監督（**伊達さんというらしい**）はいなかった。そこへ爺さんがひょっこり現れ、居場所を教えてくれた。都合のいいときに毎回出てきて、**お前はドラえもんか？**
なんと監督の居場所は墓地であった。監督をみつけた二人だが、少し様子をうかがってみることにした。よくみると、監督は勇二の墓の前で、涙を流しながら酒をあおっていた。
監督「へへへ･･･今度、ウチにあかねっちゅう新入りが入ってなぁ。これが女ながら、なかなかのラグビーセンスをしてるんだがや。勇二よ！！おみゃあさえ生きておったら･･･！！俺は、おみゃあと一緒に悲願の初勝利を達成したかったんだがやっ！！ただのワルガキだったおみゃあに、ラグビーを一からたたきこんだ俺におっては･･･織田勇二は、弟子であり、弟であり、息子でもあったんだ！！そのおみゃあが死んだ時は、俺のラグビー人生も終わったと思っただぎゃ。じゃが、天は我を見放さなんだわい。今度はあかねを中心としたほかのメンバーの強化を図るがや！！勇二よ、見ててくれい。俺は弁天堂ラグビー部監督としての首を賭けても、必ずや悲願の初勝利･･･いや･･･大学選手権をモノにして、日本一になってみせるがやっ！！」

普段はただの**飲んだくれ**、そして単なるで思いつきでラグビー部を一旦崩壊させたようにみえた監督であったが、実は、**死んだ勇二、そしてあかねをはじめとするラグビー部への愛情は、実は海よりも深く、山よりも高いのであった**。カッコいいぞ、監督。
この様子をみたあかねと近藤は、監督の思いを受け止め、新生ラグビー部として新たな一歩を踏み出すことを決意した。

ある日の練習後、あかねは、女子シャワー室で、体を洗いながら物憂げな表情だ。
あかね「まいっちゃったなぁ･･･春の新人戦がもうすぐだぞ。早いとこ 7 人メンバーを探さなきゃ･･･」
すると天井に怪しい影が。なんと女子シャワー室の天井の一角から、男が覗き見をしていた！
女子達「キャアアアアアッ！」「みんな～っ、風馬(ふうま)よ。風馬がまたのぞいてるわよ～っ！」
この、ピチピチの黒いスウェットシャツを着た風男という男、**覗きの常習犯**らしい。**重罪を犯している割には、被害者に名前呼びされるとは、いったいどういうことか。**
機転の利くあかねが、熱湯のシャワーを風男に浴びせかける。天井裏から転落する風男だったが、すぐに立ちあがり逃げ出した。これを追いかけるあかね。
100 メートル 11 秒 6 の自分なら追いつけると意気込むあかねだったが、なかなか追いつけない。
あかね「そ･･･それにしてもあいつ･･･速いっ！！そうだ、あいつをラグビー部に･･･！！」
そう思ったあかねは、追いかけっこをしながら、風馬にラグビー部に入らないかと誘ってみた。
風馬「俺をつかまえる事ができたら入ってやらぁ！！」
この言葉を聞き、改めて本気を出すあかねであったが、あまりに俊足の風馬に、最終的には引き離され、見失ってしまった。ちなみに、あかねは**バスタオル一枚だけを体に巻いて風馬を追いかけていた**のだが、途中でそのバスタオルもだけてしまい、ヌードを公衆の面

前にさらして、ちょっとした騒ぎになってしまうのであった。
その頃、風馬は隠れていた。場所は**俳句同好会**の部室だ。
弁慶という非常に大柄の男の胸の中から「もう大丈夫かな」と、モゾモゾと出てくる風馬。
一人の男を胸の中にかくまうとは･･･**弁慶、でかすぎ**でしょ。
懲りない風馬。あかねをまくことに成功したところで、すぐに道端の女子をナンパし始める。どうやら彼は、**生粋のチャラ男**のようだ。

夕方のキャンパス。講堂で、風男を捕まえられなかったことを残念がるあかね。近藤も他の部員のリクルートに努めていたようだが、全然ダメだという。**監督のメンバー候補リストも全く役に立っていない**。
なにげなくあかねが窓の外をみると、そこには女子二人組に絡む風男が！！講堂は 3 階だったが、あかねは**なんのためらいもなく窓から飛び降りた**。木の枝や車をクッションにしてなんとか無事に着地すると、そのまま風馬へタックル！
あかね「へへ･･･つかまえたぞぉ～っ。さあ、約束だ。ラグビー部に入ってもらうぞ！」
風馬「お前、そんな事のためにあそから飛び降りたのか？ふふ･･･ふあっははは！！ははは･･･お前みたいな女は初めてだよ」
色男として、数々の女で遊んできたであろう風馬。中身は勇二、外見は美少女のあかねの魅力に取り付かれたようだ。入部を承諾した。
再び、俳句同好会の部室。
風馬「･･･という訳で、俺ラグビー部に入る事になっちまったんだ。そこで･･･だ。メンバーがまだ足りないらしんだよ。なあ、弁慶」

弁慶は風馬と親友のようだ。この恵まれた体格。ラグビーにはうってつけだ。**全然承諾したようにみえないが**、弁慶も風馬の誘いにのって入部することになった。

ここから流れが変わった。あかね、近藤、風馬の 3 人の精力的な勧誘によって、各部のエース、体操部の六角次郎、ボクシング部の土門元（どもんげん）、ミリタリークラブの藤堂兵助（**通称ランポー**）、剣道部の鏡一刀（かがみいっとう）（竹刀ではなく**真剣**使い）のリクルートに成功した。

これで新入部員は 6 人。15 人揃えるまで、あと 1 人のところまでこぎつけた。
妙に人脈のある風馬をみて、近藤は思い出した。風男は、何年か前に、陸上競技 100 メートル走日本新記録を出した男で、日本人初のオリンピック 100 メートル走メダル候補として騒がれた事があったのだという。自分がどうしても追いつけなかったことに合点がいくあかねであった。
あかね「しかし、なんでそんな有名な選手が弁天堂なんかに･･･？」
あかねの疑問はもっともだが、残念ながら、**この伏線もどきは今後もあまり回収されない**ことを、ここにことわっておこう。

そこへ、一人の**ヤンキー風の青年**が現れた。
この男、あかねの顔をマジマジと覗き込むと、いきなりビンタをかまし、「ドロボウ！ヘンタイ！バカ！ハジ知らず！」とわめきちらして、走り去っていってしまった。
あかねは全く状況を理解できなかったようが、**私は彼がどんなキャラなのかもう見当がつきましたよ（笑)**。